

山の学校：散策会 一里山の文化を結び付けて学ぼうー

もの作り材料集め、炭焼き窯体験、ブナ林散策会



山の学校：ログハウス建設

子ども達の里山・農村学習の
拠点になっています。



里山散策会から得られた子ども達の
着想を元に、地元おじさんたちが計画

山の学校：炭窯作りの復活



地域の技術の再発見と活用、後継者の創出

ピザ焼き窯



川の学校



田んぼの学校



田んぼの学校ができたきっかけ



トウホクサンショウウオ
です。

きれいな水に住むといわれている。サンショウウオの群集落を発見！その他にも、数多くの生き物たちが...

郷山田の生き物たち！



何ば、捕まえだ
や？



沼エビ捕まえ
た！



ビオトープ



生物生息地の再生

ドイツ語で生命を表す(バイオ)場所を表す(トポス)を組み合わせた造語

角川には13ヶ所作成済み!



農の学校：畑の学校（野菜作りと里山保全活動）



食の教室



地域伝統の食の技術が
新たな産品開発へつながる

食の教室



山の幸、川の幸、田畑の収穫物
を使った郷土料理などが行われ
ている。

もの作り塾

里の素材を生かしたもの作り塾を開催。



もの作り塾の作品

おじいちゃんおばあちゃんとの触れ合いの場



見て、こんなに
上手にでき
たよ！



角川民話塾

～角川弁で語られる地域の人々の心に残る言い伝えから学ぼう～



民話を手作りの紙芝居に

～昔話の始まり始まり～



↑子供たちの力作

そごさ おばうさんが やんべ 通りかかった。ワビ。
若者い。「この赤ちゃんはおんくやでつづったもつ。
（馬のフン）
だがら 火さくべつごんだ。んだけらとみんあしん
じねくしてなぐんだよ。んたかばら、どうにか
してけろ。」って言、たげども、おばうさんは
やういうごとは、よく見さためて言うもんだ。
すこしは反省したまえ。おめーも ばうさんさ
らて 修行したまえ。」と言ったげど。

↑裏に書かれた文はすべて方言

4. 地域活動の発展と継続性（1）

- コミュニティビジネスと集落を越えたネットワーク形成 -

- (1) 自律的な活動展開を目指したコミュニティビジネス構想
 - ・ 戸沢村角川地区の事例-山村地域から森里川海連携の広域協働活動の展開へ-
 - ・ 産品開発とツーリズムの活性化

模索

山村資源と山村の日常の暮らしを生かして、プログラムを
実践

コミュニティビジネス（ツーリズムや産物開発）への展開



里親委員会の取り組み

地元もヨソモンもみんなで里の自然や文化を伝え、暮らしを共有したい



ふるさとの原風景を元気付ける取り組みは地域もヨソモンも協働でかかわりうるもの。
結果として交流人口が拡大しています。

※外部参入者のことを親しみを込めてヨソモンと地元では言います。

学習旅行の受入れ



学習旅行の受入れ



地元学後の展開方向の事例

農山漁村の暮らしを生かし、地域ニーズに対応した
プログラムを実行

- 自立的な活動運営のしくみと人材育成体制の形成
- 地域環境の保全と伝承
- 地域特性を生かしたコミュニティビジネスの推進
- エコツーリズム・グリーンツーリズムの展開

など

里地里山の地域と連携する活動作りのポイントとは？

まずはよく地域を調べること、地元の方の話によく耳を傾けること。ここから始まる。

□ (1) 住民主体の地域計画作り

(ヨソモンの目線の違いを活用しつつ自分たちで行う地元学調査とヴィジョン作り)

□ (2) 日常生活に立脚したプログラムとカリキュラム作り

□ (3) 里の何気ないありふれた素材を力づける

(保全と伝承、再創造、再活用、そしてコミュニティビジネスへ)

□ (4) 人材育成 (担い手育成)

そこにすんでいるおじさん、おばさん、じいちゃん、ばあちゃんが元気に暮らすことが一番の人材育成。そこに若者は引き寄せられてくる (かもしれない)。

問題や課題は地域にあるが解決策も地域にある。

しかし、それよりも地域にある価値を受け継ぎ革新していくというスタンスが大切。

4. 地域活動の発展と継続性（2）

- コミュニティビジネスと集落を越えたネットワーク形成 -

- (2) 広域的なネットワークの構築
 - ・ 活動を支える外部サポーターの充実
 - ・ 連携して事業展開を図るための近隣地域集落・市町村およびNPO団体等との相補的な関係の構築-継続性と有効性を保持する規模の確保-
- (3) ベースとなる地域づくりコンセプトの保持
 - ・ 地域の若者たち（担い手）が暮らし続けていけるための仕事を作り出そうという発想
 - ・ 伝統文化を継承しつつ地域の様々な基礎力（保全・生業・コミュニティ）を保持向上させようという基本的考え
- (4) NPO法人里の自然文化共育研究所の設立
 - ・ 広域的・普遍的な活動意義の発信とネットワーク形成-交流と学習の活性化-

角川地区の地元学からの活動展開
「それは、角川（が特殊）だから
できるんだよ」
という反応

本当にそうなのか？

森・里・川・海の多様な各地域集落で
実験的調査-活動を実践し確かめる必要

「NPO法人里の自然文化共育研究所」の設立
広域連携活動の展開

つまり、角川の里をモデルにしつつも、いろんなところで地元学を展開し、地元の方々が勝手に育つように、お手伝いしながら、交流と学習による、地域ごとの多様な地域づくり活動を構想していく、というプロジェクトを展開

「外部から応援隊があるなら、やってみてもいいかな、むしろこんなことやりたいかな」
という反応